

ドラゴンボールZ ネ  
オレツドリボン軍の野  
望

ウサガミ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

時に人は忘れることで精神の平静を保つことがあるという。  
これは人の身で歴史という大河に挑んだ愚か者の話である。

# 目次

とある狂った転生者の話	1
ようこそDBワールドへ	5



## とある狂った転生者の話

レッドリボン軍、それはドラゴンボールという作品において初期に登場した地球征服を狙う極悪非道な軍隊である。

いや地球が統一国家であるならテロリストと表現してもいいかもしれない。

まあ、原作やアニメが登場した時代においてその単語はまだ無かったのかもしれないが。

ともあれ本来のドラゴンボールにおいてはレッドリボン軍は主人公にやられる敵役にすぎない。

その残党といえるドクターゲロにしても本人は大した活躍もせず追い詰められたあげく自身が改造した少年に殺されるという無様な始末。

だが、レッドリボン軍は歴史上敗者になったから悪となったに過ぎないのでは無いだろうか？

現実には勧善懲悪のような単純なものではない。

日本には勝てば官軍という言葉がある、実際武士の時代に実質的な日本の最高権力者になった者達は大なり小なり史書に残す記録を自らに都合よく変えている。

有名なのは豊臣秀吉の帝の落胤、つまり天皇の認知していない子供という記録だ。

後年の研究が進むつれわかったのは秀吉は尾張（現在の愛知の西側）の中村の農民もしくは下級の足軽の家の出でしかなく天皇家との関わりはないという結果だ。

何が言いたいかと言えば勝者が歴史を作った部分は多大にあるのだ。

私は偽善者が大嫌いだ。良い顔しながら人を利用としようする卑怯者が嫌いだ。陰口を言うのも言われるのも嫌いだ。

私はこの世界では地球の国家が統一国家を作り上げた時期を知っている。

私はこの世界に産まれた数十年後に百年毎に転生するようドラゴンボールに願ったからだ。

その統一国家を作り上げた国家の起こりも知っている。

実際にその国家の起こりにも関わったから当然だ。

私はこの世界がドラゴンボールと呼ばれる物語に酷似した世界その過去だと知った時に思ったのは早急に地球全域を統一しなければ侵略者、異星人に備えることは出来ないということだ。

だからこそ統一後数百年の時代の体たらくを見たときは吐き気がした。

私は防衛体制を敷くために地球の国家を統一したのだ。

だが数百年の太平は人々から危機感も闘争心も奪い去っていたのだ。

ならば一度壊さねば、この世界の地球が侵略されないのはただの立地的な幸運、侵略者の気紛れにすぎない。

「……いや？　そうか、そういうことかあ……これが歴史の修正力か。歴史にある程度沿うなら変えるのも可能かな？」

「……………」

「ツバキ様、本当によろしいので？」

「ああ」

「いくら実験体が必要とはいえ貴女がかってでなくとも……」

「だからといってそこらのガキをさらって洗脳するなんて手間もかかるだろう？　その点私はレッドリボン軍の副総帥だ、人格の操作の必要もなければ貴様の研究にも理解を示してやる」

「だからといってまだ成功するかわからない段階で貴女が実験体になる必要は……」

「成功するさ貴様と貴様の妻と私が作り上げた理論が完璧でないわけがないだろう？」

「……わかりましたこのドクターゲロ施術に全力を尽くします！」

「頼んだぞ」

その日『正史』といえる世界では失敗作として表舞台に出ることすらなかった人造人間が本来とは違う形で誕生した。

ここより歴史は変わる、いや私が変わって見せよう。

首を洗って待っている孫悟空。

貴様を倒すのはピッコロでもベジータでも魔人ブウでもない我々レッドリボン軍とこの私だ！



## ようこそDBワールドへ

初夏のある日、私は友達もとい悪友達と木登りをして遊んでいた。

その時は人一倍好奇心があり我が強いと自他認める性格だったのが災いしたのかもしれない。

他の子達は木の中腹で高さに戦き、引き返すべきだと泣き出したが私はもつと行けるはずだとひとりさらに上を目指した。

ほんのわずかな油断、汗により手を滑らせバランスを崩し私は木から逆さまに落ちて意識を失った。

――

そして目を醒ましたのは1週間後であった。

「ありえない」

第一声はそれであった。そのあと大人達からの御説教で涙目になったけど。

私はドラゴンボールという物語に酷似した世界にて2度目の生を受けた。

それも原作開始の数百年前で年号がエイジと定められる前。

なぜそれがわかったと言えれば街にたまに来るガーリックと同族であろう魔族の存在、普通に街にすんでる猫型地球人など前世のそれとは違いすぎるため気がついたのだ。

だが、年号がエイジと定められる前ということは原作に関わることが出来ない。私はそれなりに自分はミーハーだと思う。

だからちよつとでも良いから原作に出た人物を見てみたいと思ったのだ。

それには色々と障害があった1つは寿命。

ただの地球人では前世の現代でも80年ぐらいだろう。

まだ原作前だから医療が発達していないかもしれないので50年が関の山と思うべきか？

その上寿命を伸ばすにしても原作における地球のドラゴンボールはまだ存在しない。神仙になり寿命を伸ばすというのものもあるのかもしれないがはつきり言って柄ではない。

だがドラゴンボール世界の占いババや亀仙人は変に俗っぽかったような…？

この世界だと意外と簡単になれる…？

とりあえず成人するまで不老長寿になるといふ桃をよく食べ情報を集め数年間過ごしたら、少し不可解な情報を得た。

7つ集めたら何でも願いが叶う宝珠があるとの伝説があったのだ。

原作前なのになぜと思つてさらに情報を集めると神龍の色がなぜか青だという情報を得た、緑を青いというあれではなく本当に青らしい。

本当になぜ？

だがドラゴンボールがあるとするなら探してみたいと思つた。

もちろん願いもあつて探すのだが、冒険の旅は心踊る。

掴もうぜドラゴンボールの意気だ。

――

しばらく経つて成人した後に旅に出るとドラゴンボール探しに出た私は紆余曲折の後に願いを叶えた。

不老不死なんて明らかに望みすぎな願いにはしなかつた。

それに私は地球人であり続けたいとも思つた。

だから何百年か毎に記憶を保持して生まれ替わるといふ願いにした。

神の力を越えていると言われたらどうしようかと思つたが大丈夫だった。

劇場版での話だがガリックも不死身の体を得たのだしその方面なら大丈夫なのだ

ろうか？

それなら地球人の造り出した神の力を越える人造人間つて何なんだろう？

ゲロがキチってるレベルの天才だったということなのか？

あと私は旅の途中にこの後の指針を得た。

原作開始時の地球は所謂統一国家それも惑星規模でのものだったため平和なのが当たり前だと思っていた。

だが私が産まれた時代は統一国家などほど遠い戦乱の時代だったのだ。

私の故郷は中立都市だったので噂話程度にどこそこで戦争があつただの大人達が話していたこともある。

その頃もまだ戦争なんて遠い場所の話だった。

しかし実際に見てしまったものはあまりに衝撃的過ぎた。

ただ語られる物語ではなくその場に居たからこそその嫌悪感、罪悪感。

ある正義の味方は言った戦争とは地獄そのものだ。

私は彼や彼の後継者のように正義感や強迫観念のような義務感に縛られた人間ではないがこの光景を看過できるほど達観もしていない。

どこぞの界王神見習いは争いを止めない人間に一方的に見切りをつけ人間ゼロ計画なる極端すぎる結論に至つたぐらいだ。

私は上記の彼らを肯定は出来ないししないが彼らの絶望はある程度理解できる。

だから私は平和の道筋を作る悪となる事にした。  
統一国家がなされていないなら統一国家を作るそれだけの話だ。